

一
三
九

百物誌
評判

壹

百地修保刺事之目録

好文堂

才一

越後新保より海にさるる事

才二

越後新保より海にさるる事

才三

鬼といふは海にさるる事

才四

西の島に釣瓶をらし 飛込火湯火の事

才五

空谷の事 新保より海にさるる事

才六

見より入る事 和泉屋介たる事

才七

和泉屋介たる事

才八

律鳴

付

雷斧

雷子玄

の事

百地修徳序

世に此の如くありて而も愼密先生とて
 和漢の道名儒仙術家此の人ありん
 たり天竺山川動極古往今來此の會
 處と云ふは或た此の處なり
 地ありやうなる所は先生と稱ふは
 にもやあまりの聖人三人ありて
 世の所をばこれとて其の百端あり
 とはすめけむい先生とていふくは
 聖まゝのたれしとて便利とてあま

もくろふなりなりとてさうさうに
にたり 祇あ来にむけと血なるも
侍え入卧けり時を事に列る 素所
おと業はけねまへ御なくいえ侍り命に
さうりし 素も新深より高田一まのり
い時けい海よりあひりあり祇少く作
さうと珍うなりにもいんさ道とと都が
この人まへ名まある侍はひき美ひなく
いと侍りしが成は侍り成しと向々進いん
生所よりいんくんと此のいさおひあは湯

U

あくあつてうなまへ抱せ出し水は法はくこ
ひきまへ抱せとく是常此理なりさうま
も成は佐法は水玉の果なれば肅殺の気
あつたり風うげあ氣冷さばうりて山
苔の鬼魅なるのなれまざなれしとさうま
も成は人まへ名まある侍はひき美ひなく
あつたり風うげあ氣冷さばうりて山
なれしと侍りて山

才二 経居和当肥後ふく縣輪首見ゆい事
かふれ人の云ゆる首と抱へんはのり

と有りハハ此は臨済和尚と云僧西の脚
のうらう肥は一りて志は村といふ取
一省せしに新あづなりなり枕風
多岐處て爰も海となりなりけき
東文を念佛稱名と居ぬに
うらうに金女房れ首むる所より
ぬきて志の破より花出ぬあやと思ひ
て念はるる人そ首の無じあとい
とせしのをなり物なり是れを輪
首よりせしと減るる去の業因ぞ

わんうう海に表つたになりてそ
動座うにそ又そのより彼首の
あつと物なるにそおのうと入
ぬ表つてそ女房と云は首のより
筋あつとにそあつとに和尚も亭
うに海と云ひききと云うなり
然してゆりぬ海はあ家の男なり
うのりしと海はゆりしと云う
きき先生傳ふといふけ首のより唐
有り物志にそ南方に戸頭盤とそ

衆人の首^{くび}びくらりなりぬもく年^{とし}とりて
 此^こをこそと見^みくらり又^{また}搜^{そう}神^{しん}紀^きは女^を女^に首^{くび}
 とし事^{こと}と載^のりくらりな^な縣^{けん}繩^{じゆ}の^の名^ないえ
 ざりしはげ^げ流^{りゅう}乞^きの^の陶^{たう}九^く成^{せう}が^が概^{がい}耕^{かう}録^{ろく}とら^らし
 に^に陳^{ちん}孝^{こう}と^とふ^ふ者^{もの}の^の南^{なん}蠻^{まん}紀^き行^{かう}の^の待^{たい}に^に頭^{かう}冠^{かん}
 如^{ごと}縣^{けん}繩^{じゆ}鼻^び吸^{そく}如^{ごと}鏡^{きやう}籠^{ろう}と^とく^く侍^しつと^とく^くは^は此^こ侍^し
 の^のむ^むい^いも^も密^{みつ}此^こ人^{ひと}は^はい^いろ^ろく^く流^{りゅう}首^{くび}ありて^て流^{りゅう}冠^{かん}と
 け^けろ^ろあ^あざ^ざる^るう^うお^おじ^じ又^{また}鼻^びに^にく^く物^{もの}を^を吸^すつ^つる^る
 も^もう^うひ^ひは^はあ^あと^と綿^{めん}衣^いが^がこ^こじ^じと^とな^なり^り是^こ衣^いの^の類^{るい}
 と^とみ^みくら^{くら}り^り時^{とき}い^いび^びり^りし^しより^{より}多^{おほ}く^く南^{なん}蠻^{まん}衣^い中^{ちゆう}



下...
 ...
 ...

に傳りたりし其のうきなりを紀述化の
實に傳りていふ其れ固く無極れさうに
あよりり其れ日月あひる類一まうの
思感にそへるなりとされば肥後あそ
わらばさしめわらばいさぬはと都方に
を希はとす及ぶるまぐくあやうさうの
をよまわらばなりと思ひぬふなり

才三 鬼とをば傳れ説く事

一人のまぐく世は鬼と尸抱へるなりといふ
び又なくいふなりとなすに抱なりべり後

より鬼といふ字もいふまじきなりといふ
目よりえ傳りし何とを鬼と尸はあやう
皮傳りたりんをいふなりとをいふなり
あやうなり傳りて一は抱なり尸はえ
世界の目よりえなりとをいふなりと
山川と草木ありぬとをいふなりと
まぐく抱何とをいふなりとをいふなり
是とあやうなりとをいふなりとをいふなり
法のなりとをいふなりとをいふなりと
まぐくとをいふなりとをいふなりと

鬼なり多し此等事傳ふと百帳の紙不
も盡しうにさく人間にたりてハ後く乃
りさるる所さ事ハ皆陽に属する所ハ聖賢
君子にたりしをもぐなり靈紙律とのふ家
物ハあづむ神なるハおなり又りく
れ悪友とよし海なりハ皆陰に属する所
愚痴癡人のむぐと曲るる所ハ此等
さハ紙鬼疫鬼の類とも是に非なりと
か何なる海しハ是れより多し衆なる所
こもなくて習ふ此に海なり一傳ふ此等

せりなり又若鬼の類といふも山岳のふ
さ此等の所の氣れつよりなり起る所なり是
又陰の類なり又同じ云細くハ鬼とてハ或
る陰のななりさるるハ靈の名なり飛のふ
さ此れハ地獄に牛頭馬頭にあらはれ又
ハ此等のびり珍原の鬼人ハ山の鬼など
も皆俗なるや言ふ云此等の鬼とて
も自業自因果と説くはさるる衆生
むくさくさるるおれなりく聖賢なるは
靈のなりけり此等さるるハ此等の

ひより發つにりて此の鬼と尸なうハ
まりともやれも儒家の流にそま地獄を
ひらき坐の流に科人あまハ地と堀りて
居まといふ是とをく紙名付て比ごと
りそ刑罰の流は古とぬき細く比ごと
まく此怖まをそてありそ又此又此鬼
なりといふ坐此國の名けそ此中國
と云事をそけそハ人偏とるそそてれう
れとそまの形ありとありとく生そ人
に施る事なり此地獄の久あわまう

て此地獄の流及鬼といふ名とまそりそ
ありまこ立馬帽子酒典を子なうハあなう
人と鬼よりにもわうそくけそとおのそ
勇力とれそ王法佛法にそむそ無道長
きう紙がくまうハそりやる和のそり
後寛のなうそし鬼の鳴なりとるそ
家國の風俗は地にて和の教法とる
夷といふなりとそそそ海にほく二
條のそとと一ほくむ鬼ハ地所の大ト
由大物とそ鬼といふそといふ

ぬ形なりわりてもぞりゆるしは目も
て人れ無とあしけく男も交にさいつは
よりけく殺さる紙毎にしくばかきけくなる
大本より何ふおとほ大れれう紙麴のお
と紙わたりつのぼろり居えけきばあき
いふとんうまにうくおへと死にけ
紙造と出く紙造りう紙よあき
紙うう紙紙きり紙け居り紙
けくなくゆりゆり紙怖あけけく
を先と先と紙あてききハ紙よける

けくおあしと云むり紙なりされたる紙の
君一と陰陽み紙の理にりき事きさ
きバと光り紙と大本紙紙けく居本と
紙理なりきと紙と紙と紙と紙と紙と紙と
けくハ大ハ紙と紙と紙と紙と紙と紙と
わひと紙と紙と紙と紙と紙と紙と紙と
本紙下紙暗き紙と紙と紙と紙と紙と紙と
さきと紙と紙と紙と紙と紙と紙と紙と
陽のき紙と紙の相生ハ紙と紙と紙と紙と
けくおしと紙と紙と紙と紙と紙と紙と紙と

がぶししと娘の氣と画さぬうちをづきの
氣紙生ぜにさす本尺樹と本生火
る理よりなりけりいふと本れ氣紙満
む火れ氣紙生るま及ぶなりけり又
天地のるふ火れ教ふあり星精の飛火
勢乃火雷れ火とて火とふ本紙より石と
よりてけり紙地火とふ人間によりて
の火令門の火紙人火とふを火れうち
けく陰火陽火れまあり湯火を物紙
焼も陰火ハ物と焼しけり又雷火を

この通人紙焼よりあるとけ火陰火なり也
へにありとてさし濡る紙りておふとたを
却て焼ハ火紙なげ所紙候しあせけんを
ま消え侍り是る理のをさやうなりまを
けしけりけりけりともや陰火なりを
れぬよりなりけり紙よえゆかりけり又
けりけりけりけり陰火なり物紙候に及ぶる
事さもありぬし紙ハ深山幽谷なりふ
てさ本れ校りみあひく火紙生るその
本れ焼よりあるなりや云うとくハ湯の用



芭蕉の女にうけて書簡此得張はし事
 幽実頼よりうり徳も何れおしや人
 才六 見う入意并和歌屋介さる事

一人此のくさつ川に大気田條城のわたりに
 いほや介さるとやいふ志あると介を
 叫りきりし門あつて夜叩けしは内より驚
 てあけぬとて物を入内へ入とむし人
 なしと海ぐれ氣つちかなど言さるは漸
 生よりて云々歌師さん月をそら
 色物作さんそく此過はくみさる

なり城をほりわねひ事じ御もそや
と思へく進け事いふく急な進けけ
門にほく入りしなひぬそれかくのぼしこ
云けきバ中人皆驚て相くわやうとあ
うれ吏そえんほし入きくうんととて
あうじてたりけり海らうと事ほくその
入きにき人唯今もそくにと云へ一座
の人何きん怖あ事ほとあるん先生解
ていそくいものびしより一名と急
いひあういなり登原墓原なほりもあ
は

呂丘家此に下石橋なほり
出りてあり是急なり人に急病風のふき
添てもどくわりけり相急な氣のあより
あよりも急に振らうとせまうん及ら
んるん云ん此門戸のお入るひ急
此急れむより月星のげあはるなり
新法師せのきくうりやとそそと思ひ
氣をけしなわとみそり坊主とあつへ
より新づしなまはる新づうなるぬ

介さるるもい頼はく侍るしめ候にせしめも
月中におのきぐ彩とをききく、近き者
わつと漆園を人もくじしとや

才七 大神曰ふはあまの

先生よりて云はぬにわ神とふ抱ありけ
大神とあま受給しけり人とお神抱と云て
この世あもゆくわたりたりとていふ神
抱友なるもの交へけりけりわたりて
なれ家よあ食取酒など侍り候る事
ありては物よ候はるりもとくむるに

侍り候はるる友なるものを無の候とほして
ぞり事にわ彼旦いし飲食の事なりとい
ふまより候るまに候えれ人彼大神抱
より人よくく云ふるり又い候るり
けりといわたりも候て けりい現ふ依
なり候て候へるり候て候て候て候て
あり候て候て候て候て候て候て候て
とく候て候て候て候て候て候て候て
事候て候て候て候て候て候て候て
とて候て候て候て候て候て候て候て

律なればせんくなく身とらうとわがうり
 とやを^{その}始とらり傳ふ^{その}紙すは^{まが}つもの
 文紙^{ぶんし}様^{よう}つら^{つら}と^と繩^{つな}と^とし^しゆり^{ゆり}め^めて^て墨^{ろく}
 に^に含^く物^{もの}と^とり^りを^をた^たれ^れ口^{くち}と^と死^しの^の流^{りゅう}と^とう^うん^んと
 ち^ちを^をふ^ふに^に垂^たく^くと^と新^{しん}に^にち^ちく^くと^と墨^{ろく}
 ま^まつ^つり^り物^{もの}と^とな^なは^は事^{こと}なり^りと^とち^ちり^りを^を紙^しに^に
 の^の盡^{じん}毒^{どく}の^の類^{るい}なり^り併^{へい}今^{いま}の^の世^よは^は通^{とお}な^な律^{りつ}
 物^{もの}と^とり^り人^{ひと}も^もい^いふ^ふと^とつ^つび^ひ律^{りつ}の^のこ^こと^とと^と人^{ひと}と^とり^り
 ひ^ひの^の紙^し新^{しん}く^くを^をま^まう^うと^とと^と文^{ぶん}な^なは^はち^ちを^をさ^さべ^べと^と
 は^は是^こを^をま^まと^とう^うら^らに^にち^ちに^に世^よ代^{だい}れ^れの^の事^{こと}

なりし程にわね王城の人より事わね
とありさへちと程の方にとわねおろ人
万に貸てりそなりと人の家紙そなりぬ
と後とくひよけ程は云おの事と是別ぬ
ととなりぬとさ酒紙ぬぬも人よわね
らずととやかく思ふと畜類とら又と
なるとても情紙ぬぬの本わたりとて飲
食のふよ紙紙ぬぬ人ハ皆わねの性とら
才ハ 神鳴付 雷芥 雷垂の事
一人の云世よれとらと程の中とく神鳴



能なりいほし何ふへあへさるえ来なく生頼
 にあふるかとわりの形あらん似りいふさぬ
 せもあふる理のゆらんぬさるやとえ先生
 の云雷れ中流ハ周易に及なり夜出れも
 さぬく流より雷別といふあてハ二月の始
 けくふふさるゆゆし神唱とも耳て火成ふ
 ばし成記せり國史補よへも物物のにじた
 かりかぬれ流海しといふ西流よれは祥
 に性理大全に宋初の儒士の論を載る
 是くのより傳也史雷ハ陰陽をさるるあり

と云ひてて此よりいふ言はれり
くせりもあつたといふ法に陽より
是をあらわすなり陰陽の二つを
わけるにおよぶ陽の氣法に勝る
わするまゝあるひの中へにさう
さうしてこれに後者の家はあつて
試みたりされども雷にむかひて
にわづらふてもいふことなる
ふる風の感より雨なりとも
びし焚火といふ者水のなり

延^{えん}長^{ちやう}中^{ちゆう}に清^{せい}涼^{りやう}殿^{でん}にいつたりゆきひて
 夜^や東^{とう}清^{せい}貴^き中^{ちゆう}希^き世^{せい}との外^{ほか}殿^{でん}上人^{じやうじん}を
 とりゆきり身^みゆかりにたり世^よの人^{ひと}月^{つき}なり
 にしゆりハ菅^{えん}野^の相^{さう}の清^{せい}貴^きれまにそ
 やうゆわをりじきためによりもあ
 けや雷^{らい}のあそび多^たなりしゆきハ金^{きん}糸^い
 の大^{だい}おほねまでうきやうして清^{せい}涼^{りやう}殿^{でん}の縁^{えん}
 むにじに修^{しゆ}し海^{かい}門^{もん}城^{じやう}も後^ごしお監^{かん}より
 以下^{以下}の官^{くわん}人^{にん}づきも義^ぎくといくも殿^{でん}の
 おなまはゆきり我^{われ}神^{かみ}唱^{なう}陳^{ちん}とりともやこれハ

ともはそりて死する人ハ皮肉ハ損せたり
 その骨れどもさうさうの雷ハや法外な
 事ハ金つものも物破る事ありさう次
 かりたさうさうなる理なりさう人ある
 われ銭さうさう死も鬼形のれめさうに
 事あるに付ていうと海江と歎きむさう
 さうに糸きねのつひなうハそれとさ
 けいあうだ又つ統は法陽れなすまうと
 とも又神ありてさうお代はさうさうなり
 鬼神幽微のるさうあうにけいと唐土の

好文堂